

資料配付の場所

筑波研究学園都市記者会

平成 18 年 7 月 20 日 14:00 配布

平成 18 年 7 月 20 日  
記者発表  
国土技術政策総合研究所

## つくば居住者交通実態調査について

国土交通省国土技術政策総合研究所と筑波大学都市交通研究室が共同して、つくばエクスプレス(以下、TX)開業を契機に、茨城県南地域の自動車と公共交通のバランスのとれた交通体系を実現することを目指し、TX開業後交通実態調査を実施しております。

本調査は、『人の一日の動き』についてアンケート調査を行うものでTX開業前の平成17年7月に実施した調査結果と比較して、TX開業前後での人々の交通行動の変化を分析します。このため、TX開業前調査において協力して下さった同じ方を調査対象としました。さらに7月22、23日にはつくばに新しく転入してきた方も対象に調査を実施し、転入後の自動車利用意識がどのように変化し、交通行動が習慣化するかも分析します。

前回の一部のアンケート回答者の方を対象に、コミュニケーションを通じて自発的な自動車利用の抑制を呼びかけるTFP(Travel Feedback Program)を実践しています。

また、筑波大学、国土交通省、茨城県、つくば市、首都圏新都市鉄道、関東鉄道から成る「つくばの交通を考える研究連絡会(座長:石田教授(筑波大))」を立ち上げており、つくばの交通に関する情報交換や新しい取り組みの検討を行っております。

今回の一連の調査及び分析結果がこうした取り組みの基礎資料として活用され、また多くの方々がつくば市の交通に関する共通意識を持つことで、バランスのとれた交通体系の実現に向かうことを期待しております。

なお、本調査の概要は参考資料(裏面)のとおりとなります。

問い合わせ先:

国土交通省 国土技術政策総合研究所

道路研究部 道路研究室

室長 奥谷正、研究員 諸田恵士

電話番号 029-864-4460(諸田直通)

### つくば居住者交通実態調査の概要

#### 目的

2005年にTXが開業し、周辺住民の交通行動は大きく変化した。そこで、2005年7月に実施したTX開業前交通実態調査に続き、TX開業後の交通行動及び意識変化を把握し、周辺住民への影響を検証することを目的とした交通実態調査を行う。

計測項目

個人属性

東京方面、柏・埼玉方面の移動に関する交通行動変化(交通実態調査)

地域内における交通行動の変化(アクティビティダイアリー)

#### 対象者

TX開業前交通実態調査対象者 (有効回答をいただいた方 1021世帯)

#### 【参考】事前調査

交通実態調査 配布 1500世帯 回収 1067世帯 未回収 433世帯

TFP(Travel Feedback Program)効果計測 配布 305世帯 回収 259世帯 未回収 46世帯

転入者 目標配布 350世帯(1000人程度)

調査対象:新しい団地・マンションの入居者

転入直後の自動車利用意識と交通行動を把握し、今後、どのような自動車利用意識が変わり、交通行動が習慣化するか、また古くから居住している世帯と交通行動に差異があるのかなどを検討するための基礎データとすることを目的としている。

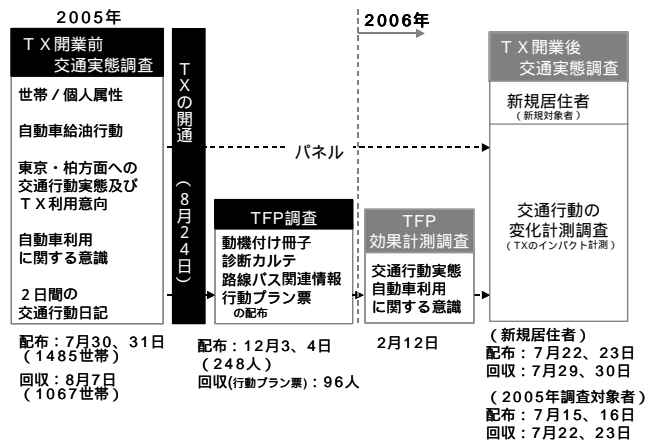
#### 調査スケジュール

TX開業前調査 2005年7月実施

TFP(Travel Feedback Program)効果計測調査

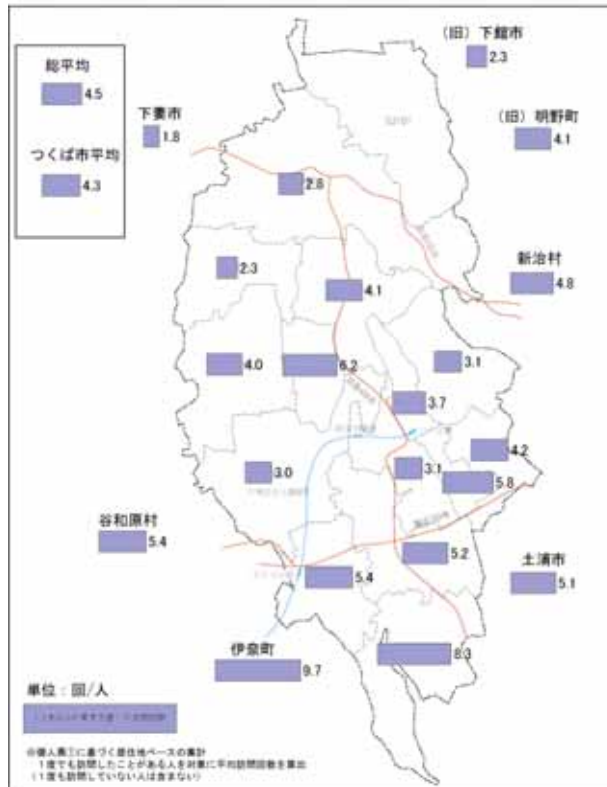
TX開業前調査の対象者から抽出し、コミュニケーションを通じて自発的な自動車利用の抑制を促す取り組み

TX開業後調査 2006年7月調査予定

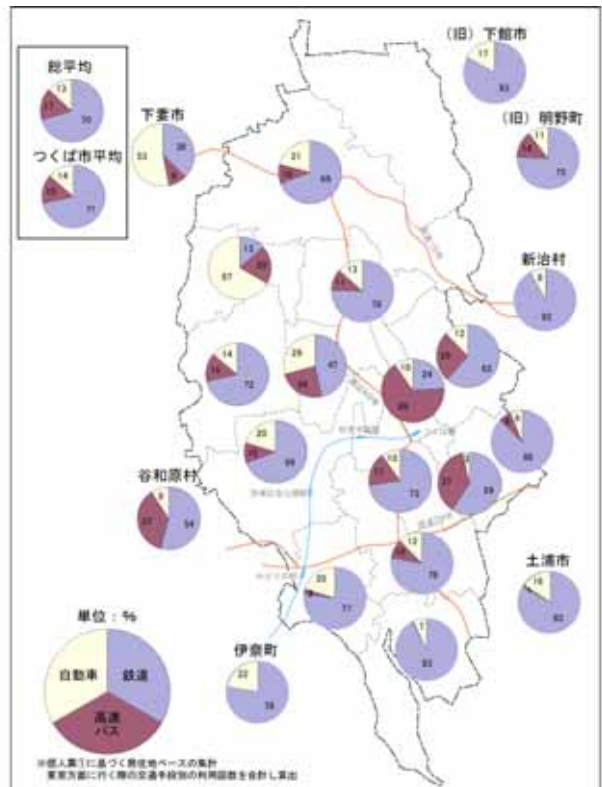


#### 中間結果

下図に2005年7月に実施したTX開業前調査における調査結果を示す。



地区別の東京方面への1人あたり訪問回数



東京方面への利用交通手段分担率